

事業&活動報告

■ シニア世代の地域活動促進事業開催報告

1月29日(土)Zoomにて「1階づくり」から楽しむ“まちづくり”@千葉～パーソナル屋台ってなに?～を開催。株式会社ブランドレベル代表取締役の田中元子さんを招いて、参加者40名の講座となりました。

- ・まちをつくるのは、クリエイターではなく、目の前のあなたたち・・・
- ・好きだからやる
- ・やってみたいからはじめる
- ・個人が持つ小さな“やりたい”が、やがてまちを変えるかもしれない・・・

という講師の話には、参加者全員が引き込まれました。

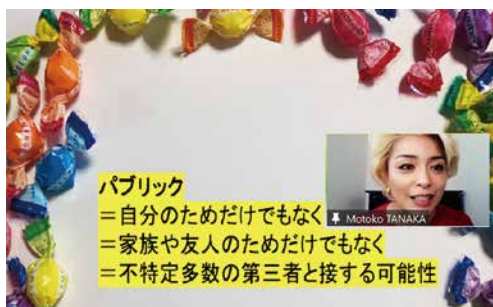
その後のグループワークでは、

- ・一緒に何か始めましょう。・活動に参加させて下さい。
- ・今の活動に勇気をもらえた。・背中を押してもらえた。

と、出会った方たちの間で色々と化学反応がおき、早速準備を始めたグループもあるようです。

《参加者の感想から》

「ほんのちょっとした思いつきから始めればいいんですね」「考えていることを言葉にすることが大きな一歩だと思いました」「コミュニティカフェと銘打つと人は来にくくなるという視点、目からうろこでした!」「あなたが楽しいことをやる!という田中さんのお話、響きました!」



■ まちなかボランティア養成講座 5年を振り返って

東京オリンピック・パラリンピック開催が決まったのを契機に、多くの人がボランティアに関心を持つようになりました。この機運を活かして、ボランティアをもっと身近に、誰もが「お手伝いしましょうか」と声をかけることができる「おもてなしの街ちば」を目指して、「まちなかボランティア養成講座」は始まりました。2017年からの5年間で20回の講義を行い、355名の方が受講しています。



2020年以降はコロナの影響を受け、入室可能な人数の削減など規制が多くなり、受講希望者の数も頭打ちとなったのは残念なことです。さらに影響を受けたのは実習で、地域のイベントが次々と中止となって、なかなか実習の場が得られず、せっかく講義を受けたのに実習を体験できない「待機中」の方が増えました。雨による中止などもあり、5年間で実施できた実習は26回ほど。こうした中、2回の実習を経てめでたく「修了証」を得られた方は79名に留まりました。実習は今後も引き続き折を見て開催し、修了者をひとりでも多く送り出したいと考えています。また来年度からは、形を変えてボランティアや地域活動関連の講座を開く予定です。



ミニコラム

ちばさぽの風 vol.48

市民活動に依存しない社会

“コロナ禍”が長く続いています。市民の生活に多大な影響を及ぼしていることは言うまでもなく、とりわけ、社会的弱者と呼ばれる層へのしわ寄せが増大しており、こうした問題に取り組む市民活動が広がりを見せています。市民活動団体に対する助成金も、新型コロナウイルス対策に係る活動に対象を限定したものがあり、社会全体で支援の動きが進んでいます。

また、大規模な自然災害が頻発し、人々の平穏な暮らしを脅かしています。近年、さまざまな形の災害ボランティアが定着し、被災者支援・被災地支援の大きな力になっていますが、もちろん、復興はボランティアの力だけでなし得るものではありません。

ここ最近、センターにはNPO法人や市民活動団体の立ち上げに関する相談が多く寄せられています。新規の団体登録も増えており、コロナ禍でありながら、地域や社会の問題を何とかしたいという思いをもち、自発的に動きを起こす人たちが多くいることを実感しています。一方で、休眠状態となっている団体も多くあるのが実態です。活発に活動をしていた団体の方が、頑張りすぎたのか(頑張らざるを得なかったのか)体調を崩してしまったという話を耳にしたこともあります。

市民活動は義務ではなく、自発的に始めるものなので、活動をやめること(休眠状態になること)自体は、誤解を恐れず言えば何も問題はありません。ただ前述のように、頑張りすぎて、体調を崩して活動を休止せざるを得なくなってしまったというケースは、ある意味問題がありますし、非常に心が痛みます。市民活動の支援とは、活動を活性化させることだと当たり前に思っていました、休止を進言することが支援になる場合があるかもしれないといったことを、最近感じています。

自然災害発生などの非常時には、一人でも多くの方がボランティア活動に参加することが望めます。しかし、平時に多くのボランティアや市民活動団体が必要とされているとしたら、それは社会のあり様に問題が存在しているということかもしれません。抽象的ですが、ボランティアや市民活動団体に依存しない世の中が、理想なのではないかと考えます。市民活動は楽しいことばかりではないかもしれませんが、苦しさの方が勝るようでは本末転倒でしょう。社会が市民活動に過度な期待をし過ぎないことも、これからは求められるのではないのでしょうか。(は)

